

# 和紙の原料について

## 楮 (こうぞ 美濃楮、那須楮)

桑(わ)科  
学名: Broussonetia kazinoki  
開花時期: 4~5月  
分布: 本州以南

- 山野に生える。
- 6月頃、木いちごに似た、つぶつぶの実がなる。甘い。
- 名前は「紙麻(かみそ)」→「かみぞ」→「こうぞ」に変化したとの説あり。
- 別名「紙の木(かみのき)」和紙の原料になることから。

美濃楮、那須楮は楮の栽培された地域での分類です。楮の木はその栽培地により収穫できる品質に差があり、那須楮は日本で最も質の良い物と言われています。ユネスコの無形文化遺産に登録された本美濃紙には大子那須楮を使用します。



楮の実



楮の花

## 三叉 (みつまた)

沈丁花(じんちょうげ)科  
学名: Edgeworthia chrysantha  
開花時期: 3月~4月  
分布: 中国原産、繊維植物として日本の暖地に栽培

- 原産地は中国中南部、ヒマラヤ地方。江戸時代初期に渡来。
- 花は、蜂の巣がぶら下がったような形。
- 枝が3本ずつ分岐する。これが名前の由来です。
- 樹皮には強い繊維があり、和紙の原料となる。しわになりにくく高級で、また虫害にもなりにくいで、1万円札などの紙幣や証書などの重要な書類に使われる。
- 「三極」ども書く、「極」は「あ」ども読み、「木の股」の意味がある。
- 赤い花は戦後、愛媛県の栽培地で発見され、今では黄色い花とともに良く栽培されている。



三叉



赤い三叉

## 雁皮 (がんび)

沈丁花(じんちょうげ)科  
学名: Diplomorpha sikokiana (French. et Savat.) Honda  
開花時期: 5~6月  
分布: 本州(静岡県小笠山および石川県南部以西)・四国・九州(佐賀県黒髪山)

比較的日のあたる砂質土あるいは蛇紋岩地に生育。高さ2Mほどの落葉低木。若枝・葉・花序は伏した絹毛を密生、葉はまばらに互生。裏面は特に絹毛が密で灰白色を呈し、長さ1.5~8cm、幅1~4cm、2~3mmの短い葉柄がある。7-20花の頭状花序を頂生。花は淡黄色。

\*水うちわに使用する和紙はこの雁皮を使用しています。



雁皮の花



雁皮の葉

## 黄蜀葵 (とろろあおい)

葵(あおい)科  
学名: Abelmoschus manihot

- 黄色い大型の花。晩夏に咲く。一日花で、夕方早い時間に閉じる。
- 「おしよつき」ども読む。
- 別名「通和散」(つわさん)。
- 根の部分が粘っこいらしい。

原料ではありませんが手すき和紙にとってなくてはならないものです。ネリ(トロアオイの根を砕いて水に浸して抽出した液体)は、水中の楮、三叉、雁皮などの繊維を均等に分散して浮遊させ、沈殿しにくくして漉きやすします。また、紙料液が簀のひごの間から漏れ出すのを防ぐため、簀の上で繊維をよく絡ませる効果を発揮します。そしてネリは温度や時間に影響を受けて効果をなくします。冬にすき和紙の質が良いと言われるのはネリの効果が長く続いたためだと言われています。この効果が「流し漉き」といわれる和紙の製造技術確立させたのです。



黄蜀葵の花



黄蜀葵の根



ねべし